

耳鼻咽喉科学

1 構成員

	平成 14 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
助教授	1 人
講師（うち病院籍）	2 人（ 2 人）
助手（うち病院籍）	5 人（ 3 人）
医員	3 人
研修医	2 人
特別研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（ 0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技官（教務職員を含む）	1 人
その他（技術補佐員等）	2 人
合 計	17 人

2 教官の異動状況

星野 知之（教授）（H 7 . 4 . 1 現職）

峯田 周幸（助教授）（H 8 . 3 . 1 現職）

岩崎 聡（講師）（H12.12.1 現職）

武林 悟（講師）（H13. 9 .30 静岡済生会総合病院医師 H13.10.1 浜松医科大学医学部附属病院講師）

佐々木 豊（助手）（H12. 3 . 1 現職）

三澤 清（助手）（H13. 4 . 1 現職）

大和谷 崇（助手）（H13. 5 .31 浜松医科大学医学部附属病院医員 H13. 6 . 1 浜松医科大学医学部助手）

名倉三津佳（助手）（H13. 5 .31 浜松医科大学医学部附属病院医員 H13. 6 . 1 浜松医科大学医学部助手）

黄永 信理（助手）（H13.12.31 清水厚生病院医師 H14. 1 . 1 浜松医科大学医学部附属病院助手）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 13 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10 編（3 編）
そのインパクトファクターの合計	8.23

(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	1編	(1編)
そのインパクトファクターの合計	0	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	7編	(7編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	3編	(2編)
そのインパクトファクターの合計	0.83	
(6) 国際学会発表数	7編	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Iwasaki, S., Usami, S., Abe, S., Isoda, H., Watanabe, T., Hoshino, T. (2001) Long-term audiological feature in Pendred syndrome caused by PDS mutation. Arch Otolaryngol Head Neck Surg 127 : 705-708
2. Nagura, M., Iwasaki, S., Mizua, K., Mineta, H., Umemura, K., Hoshino, T. (2001) Role of nitric oxide in focal microcirculation disorder of guinea pig cochlea. Hear Res 153 : 7-13
3. Wu, R., Hoshino, T. (2001) Long-term changes in off-lesion endocochlear potential after induction of localized lesions in the lateral wall. Ann Otol Rhinol Laryngol 110 : 271-276
4. 岩崎 聡, 渡邊高弘, 林 泰広, 長井伸子, 星野知之 (2001) アナログ補聴器 vs デジタル補聴器の臨床比較評価. Audiology Japan 44 : 156-162
5. 峯田周幸 (2001) 前頸下部の出もの・腫れもの JOHNS 17 : 1660-1666
6. 峯田周幸 (2001) 外用薬 野村恭也 他編集 CLIENT21 21世紀 耳鼻咽喉科 薬物療法 20 : 138-143, 中山書店 東京

インパクトファクターの小計 [4.404]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Nakamura, M., Whitlock, G., Aoki, N., Nakashima, T., Hoshino, T., Yokoyama, T., Morioka, S., Kawamura, T., Tanaka, H., Hashimoto, T and., Ohno, Y. (2001) Japanese and western diet and risk of idiopathic sudden deafness: a case-control study using pooled controls. Internat J Epidemiol 30 : 608-615
2. Nakamura, M., Aoki, N., Nakashima, T., Hoshino, T., Yokoyama, T., Morioka, S., Kawamura, T., Tanaka, H., Hashimoto, T., Ohno, Y. and Whitlock, G. (2001) Smoking, alcohol, sleep and risk of idiopathic sudden deafness: a case-control study using pooled controls. J Epidemiol 11 (2): 81-86
3. Nishizawa, S., Yokota, N., Yokoyama, T., Mukohdaka, H., Watanabe, T., Hoshino, T., Ueda, Y. (2001) Prevention of postoperative complications in skull base surgery for nasal or paranasal sinus carcinoma invading the skull base. J Clinl Neuros 8 (suppl) 67-80

インパクトファクターの小計 [2.07]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Huang, D., Chen, P., Chen, S., Nagura, M., Lim, D.J., and Lin X. (2002). Expression patterns of aquaporins in the inner ear: evidence for concerted actions of multiple types of aquaporins to facilitate water transport in the cochlea. Hear Res 165 : 85-95

インパクトファクターの小計 [1.753]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森田浩史, 星野知之 (2001) 耳介奇形と中耳奇形. JOHNS 17 : 185-188

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 星野知之 (2001) 特発性両側性感音難聴 難病の診断と治療指針 2巻 380-386, 六法出版社
2. 星野知之 (2001) 外耳道炎 (外耳道湿疹を含む) 今日の治療指針 P.884 医学書院
3. 星野知之 (2001) 耳診療のコツ 八木聡明 (編) 耳鼻咽喉科オフィスクリニック-診療 検査編 - p.20-30 医学書院
4. 星野知之 (2001) 鼓膜炎の原因, 病態, 治療について 野村, 本庄, 小松崎 (編) 耳鼻咽喉科頭頸部外科クリニカルトレンド P.16-18 中山書店
5. 星野知之 (2001) 耳の仕組み, 働きと検査 神崎仁 (編) NHK きょうの健康 耳鼻のどの病気 P.136-141
6. 星野知之 (2001) 急性高度難聴研究班の活動 IRYO : 55 : 570-571
7. 星野知之 (2002) 耳鳴の診断 JOHNS 18 : 165-166

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 星野知之, 岩崎聡, 天野肇, 荒木圭介 (2001) 後天性と考えられた多発性真珠腫性中耳炎の1例. Otol Jpn 1 : 137-140
2. 渡辺高弘, 水田邦博, 星野知之 (2001) 特発性側頭骨嚢腫と中耳手術. JOHNS 17 : 746-748

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Miura, K., Mineta, H., Yokota, N., Tsutsui, Y. (2001) Olfactory neuroblastoma with epithelial and endocrine differentiation transformed into ganglioneuroma after chemoradiotherapy. Pathol Int. Dec ; 51 (12): 942-7.

インパクトファクターの小計 [0.830]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(6) 国際学会発表

1. Iwasaki S., Watanabe T., Nagai N., Suzuki T., Hoshino T. (2001) The effect of speech rate to speech recognition in cochlear implnat users and elderly adults. The third congress of asia pacific symposium on cochlear implant and related sciences. April, Osaka, Japan
2. Iwasaki S., Usami S., Hoshino T., Nagura M., Mizuta K., Harada D. (2001) Yuge I. : Family case of non-syndromic hearing loss caused by TECTA mutation. The Molecular Biology of Hearing and deafness Conference. October, Bethesda, Maryland, USA.
3. Lee, H.Y., Andalibi, A., Webster, P., Moon, S.K., Nagura, M., Kang, S.H., Teufert, K., Lim, D.J.. (2002). Bactericidal activity of antimicrobial peptides from the human middle ear. 25th mid-winter meeting of Association for Research in Otolaryngology. St. Petersburg (Florida), Jan. 27-31, USA.
4. Mineta, H. (2001) Endostatin expression inhibits NOS activity in head and neck carcinoma cell line. 4Th European workshop on basic biology of head and neck cancer Oct 4-6, Amsterdam
5. Nagura, M., Iwasaki, S., Mizua, K., Hoshino, T., Mineta, H., Takeshita, T. (2002) Role of nitric oxide in focal microcirculation disorder of guinea pig cochlea. 25th midwinter meeting of Association for Research in Otolaryngology. St. Petersburg (Florida), Jan. 27-31, USA.
6. Takebayashi, T., Mineta, H., Reidar Grenman, and Thomas E. Carey (2001) Tumor progression associated with loss of heterozygosity on 18q. 105th Annual Meeting of American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Foundation, Denver (Colorado), Sep 9-12, USA
7. Takeshita, T., Iwasaki, S., Nagura, M., Watanabe, T., Hoshino, T. (2002). Different vulnerabil-

ity of outer hair cells (OHCs) against photochemically induced cochlear damage. 25th mid-winter meeting of Association for Research in Otolaryngology. St. Petersburg (Florida), Jan. 27-31, USA.

4 特許等の出願状況

	平成 13 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 13 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (80 万円)
(2) 厚生科学研究費	2 件 (580 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	4 件 (110 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	6 件 (430 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

峯田周幸（代表者）基盤研究（C）(2)「アンギオスタチン・エンドスタチン遺伝子導入とその発現機序の解析」80 万円（継続）

(2) 厚生科学研究費

星野知之（代表者）特定疾患対策研究事業 急性高度難聴調査研究（班として 2,500 万円，班長として 500 万円）（継続）

岩崎 聡（分担者）感覚器障害研究班「難聴によるコミュニケーション障害と補聴器による改善」80 万円（継続）代表者 北里大学医学部教授 岡本牧人

(5) 受託研究または共同研究

星野知之 明治乳業（株）「ファイブレン YH の栄養評価」26 万円

岩崎 聡（株）ゲッツブラザーズ「クラリオン人工内耳における使用成績調査」10 万円

岩崎 聡（株）日本コクレア「N24 システム市販後調査」44 万円

名倉三津佳 バイエル薬品（株）「バイナス錠使用成績調査」30 万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	平成 13 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	2 件
(3) 学会座長回数	8 件

(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	2 件

(2) 国際・国内シンポジウム発表

1. Iwasaki Satoshi (2001) Clinical experience and research with cochlear implant in Hamamatsu. The first joint symposium between Kyungpook National University School of Medicine and Hamamatsu University School of Medicine. November, 12, Kyungpook National University School of Medicine Daegu, Republic of Korea.
2. 名倉三津佳 (2001) 高齢特発性 BPPV 患者における血管内皮分子マーカーの検討, 第 7 回東海メニエール病研究会, 8 月, 名古屋

(3) 座長をした学会名

- 星野知之 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会
- 星野知之 第 46 回日本聴覚医学会
- 星野知之 第 11 回日本耳科学会
- 星野知之 第 60 回日本めまい平衡医学会
- 星野知之 第 15 回日耳鼻専門医講習会
- 峯田周幸 第 25 回日本頭頸部腫瘍学会
- 峯田周幸 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会
- 峯田周幸 第 11 回日本耳科学会

(5) 役職についている学会名とその役割

- 星野知之 日本耳鼻咽喉科学会評議員
- 星野知之 日本耳科学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 13 年度
学術雑誌編集数	1 件

1. 星野知之 JOHNS 編集委員

9 共同研究の実施状況

	平成 13 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	1 件

(2) 国内共同研究

- 宇佐美真一 (信州大学医学部) 難聴遺伝子に関する研究
- 北澤茂良 (静岡大学情報学部) 聴覚モデルによる人工内耳システムの研究

(3) 学内共同研究

堀田喜裕（眼科）アッシャー症候群の臨床遺伝学的研究

10 産学共同研究

	平成 13 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞（学会賞等）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 蝸牛血管条限局性障害の病態の検討

血液中に投与したローズベンガルと外部より照射する緑色光でおこる光増感反応を利用し、モルモット蝸牛の側壁に限局した循環障害を作成し、形態学および生理学的変化をみる仕事は 5 - 6 年連続して行ってきた。平成 13 年は、同じ回転に 2 つの障害を作成し、感覚細胞の消失、蝸牛内電位 (EP) を測定した。1 mm はなれた障害の間の部位では血管条に変化はみられないのに、外有毛細胞 1, 2 列の細胞消失がみられ、またその部での EP は一度低下はするが、もとの回復することも判明した。多発する血管条障害はヒトの内耳では良く見られる病態で、この仕事はヒトの難聴病態解明に役立つ。

(竹下 有, 岩崎 聡, 名倉三津佳, 星野知之)

2. Ws ラットの血管条の発達経過の形態学的検討

遺伝子異常から血管条中間細胞の発達に異常のある Ws ラットの生後の血管条の発達を透過型電顕, 光学顕微鏡で検討し, その特異な発達を上皮細胞と血管の発達から検討した。

(新木五月, 水田邦博, 星野知之)

3. 突発性難聴の症例対照研究

原因の不明な突発性難聴の健康と生活習慣の調査をコントロールをおいて, 詳しく調べようとするもので, 現在進行中である。

(中村美詠子, 青木伸雄 (衛生学), 星野知之)

4. 頭頸部がんにおける血管新生発現について

血管新生増殖因子である血管内皮増殖因子 (VEGF), 線維芽細胞増殖因子 (FGF), 抑制因子といわれているアンギオスタチン, エンドスタチンの発現を既存の 388 例の DNA, RNA, タンパクを用いて調査し, 臨床経過との相関を調べる。従来我々が研究してきた種々の細胞増殖あるいは抑制因子との関連を調べ, 発癌または癌の浸潤・転移にみられるさまざまな因子のネットワークを遺伝子レベルで推測する。またそのキーとなる遺伝子を確認する。

(峯田周幸, 武林 悟, 三澤 清)

5. 補聴器の開発とその評価

Disposable hearing aid はこれまでの補聴器とはまったく異なったコンセプトにもとずいてアメリカベンチャー企業である SONGBIRD 社が開発中の補聴器である。我々は SONGBIRD 社と共同して、日本での臨床テストを施行し、技術的問題点を見つけ、共同研究として改善を試みる事となった。

今後さらに、技術的・機能的評価を行っていく予定である。また、補聴器の評価方法の改善・構築を行い、厚生科学研究班・感覚器障害研究班「難聴によるコミュニケーション障害と補聴器による改善」にて補聴器の自覚的評価法を作製した。今後、最近普及してきたデジタル補聴器等の臨床評価を行い、より補聴器の選択・調整が客観的に行える方法を検討中である。

(岩崎 聡, 長井伸子, 鈴木千香子)

6. 難聴遺伝子変異と臨床症状

難聴に関与する遺伝子は30~100個あると言われており、現在24程の遺伝子が報告されている。遺伝子変異でも難聴のみが見られる非症候群性難聴と難聴以外の臓器の症状も見られる症候群性難聴の2つに分類されている。家族性難聴や遺伝性難聴が疑われる場合は遺伝カウンセリングを伴った難聴遺伝子解析(宇佐美真一教授;信州大学医学部と共同研究)を行っている。又、我々は小児人工内耳を行っているため乳幼児難聴を診察する機会が多い。その中で前庭水管拡大奇形が認められる場合、乳幼児期に特異な聴力変動がみられる非症候群性難聴が確認された。現在 PDS 遺伝子変異と聴力変動・言語発達との関係を調査している。症候群性難聴に関しては Usher 症候群にターゲットを絞って今後行う予定(堀田喜裕教授;眼科と共同研究)である。

(岩崎 聡, 名倉三津佳, 竹下 有)

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 岩崎 聡 (2001) 生命科学の最先端「難聴の原因を遺伝子解析」静岡新聞, 8月18日夕刊
2. 岩崎 聡 (2001) 音声認識ソフト ViaVoice98「患者とのコミュニケーションに活用」日経 PC 21 11月号